FUKUOKA / IDEAS FOR OUR FUTURE

福岡から、
日本の未来を動かそう。

九州のキャピタルシティから、日本を支える副首都へ。

成長を、暮らしへ。挑戦を、日常へ。

福岡の成長を、建物や人の数だけで終わらせない。
移動しやすさ、挑戦できる仕事、住み続けられる街、
自分らしく過ごせる毎日につなげます。

平時｜成長と挑戦の拠点

非常時｜日本のバックアップ

暮らしを変える、6つの柱

01 世界とつながり、
自由に移動する。

02 九州の中心から、
日本を支える。

03 人が育つ。
挑戦が仕事になる。

04 文化が育つ。
住み続けられる。

05 安心と、
自分らしさを。

06 市民とつくる。
結果を示す。

「やりましょうよ」が、福岡の未来を動かす。

本書は「現状のデータ → 提言 → 世界の参考事例」の順で解説します。
出典・事例名はクリックできます。 Web版を開く ↗

PILLAR 01 / OPEN & CONNECTED

01 世界とつながり、自由に移動する。

世界への玄関口と、毎日の移動を一体で考える。クルマか公共交通かの二択ではなく、どちらも快適に選べる街を目指します。

福岡空港の年間旅客

2,883.7
万人

2025年度／旅客数。国内・国際の合計は丸めで差が生じます。
福岡のデータ・出典 ↗

都市高速の渋滞

1,254
件

2024年度／交通集中によるものが約8割。旅客増が原因とは断定しません。
福岡のデータ・出典 ↗

移動需要と混雑に向き合う。空港・道路・公共交通・駐車場を一体で改善。

01 福岡空港を、24時間稼働の国際ハブへ

世界との直行便と乗り継ぎを充実させ、観光、企業の海外展開、人材交流を広げます。空港から地下鉄・都市高速・駐車場、九州各地までを一体で考えます。静かな機材や運航方法、防音により周辺住民の暮らしも守ります。

目指すのは航空機の24時間発着。現行の離着陸は原則7–22時（施設の24時間運用とは別）。空港規程 ↗

世界に学ぶ

香港｜24時間運用の国際空港 ↗
シアトル｜空港周辺の騒音対策 ↗

02 クルマの快適さを、諦めない。

都市高速は混雑に応じた時間帯別料金と割引で渋滞を緩和。必要な場所に駐車場を確保・増設し、予約・空き情報・共同利用を改善します。地下鉄・バスも、乗り換え、荷物、雨や暑さ、帰りの移動まで快適にします。

世界に学ぶ

シンガポール｜時間帯別の道路料金 ↗
サンフランシスコ｜需要連動の駐車料金 ↗

世界事例は政策の参考です。福岡の提言と同一の制度を示すものではありません。

PILLAR 02 / CAPITAL & BACKUP

02 九州の中心から、日本を支える。

福岡だけを守る防災にとどまらず、被災した地域を支える都市へ。平時の都市機能を、非常時の救援・復旧に生かします。

能登半島地震への短期職員派遣

2,096
人・延べ

2024年11月11日時点／福岡市の支援実績。実人数ではありません。
福岡のデータ・出典 ↗

支援の経験を、止まらない仕組みへ。自らの防災と日本のバックアップを両立。

03 副首都・福岡。

平時は成長と挑戦の拠点。非常時は日本を支えるバックアップ。首都圏、南海トラフ、九州各地の大規模災害時に、行政・企業の重要機能を継続し、救援と復旧を担います。空港・港湾・高速道路をつなぎ、支援人員、医療、物資、車両を必要な地域へ。通信・電源・物流・訓練を平時から整えます。

世界に学ぶ
米国 FEMA｜広域災害の支援・物流拠点 ↗

重要機能を継続
行政・企業・通信

支援を届ける
医療・物資・人員

復旧を支える
物流・電源・拠点

支援の経験を、止まらない仕組みに。

空港・港湾・高速道路をつなぐだけでなく、誰が判断し、どこから何を届けるかまで、平時の連携と訓練に組み込みます。

世界事例は政策の参考です。福岡の提言と同一の制度を示すものではありません。

PILLAR 03 / LEARN & IMPLEMENT

03 人が育つ。挑戦が仕事になる。

学びを資格や卒業で終わらせない。地元企業との現場経験、事業づくり、継続する仕事へつなげ、若者が福岡で挑戦できる環境をつくります。

雇用者報酬の伸び

+1.3
%

2022年度／前年度比・名目。個人一人あたりの賃上げ率ではありません。
福岡のデータ・出典 ↗

企業所得の伸び

+25.0
%

2022年度／前年度比・名目。雇用者報酬と対象が異なる集計。
福岡のデータ・出典 ↗

企業の成長だけで終わらせない。学び・実装・地元の仕事・所得をつなぐ。

04 学びから、仕事・社会実装まで。

大学と地場産業界・企業が一体で人材を育て、学びと現場経験を結びます。若者が福岡で挑戦したい仕事に就ける環境へ。市民・企業・大学・行政が試作、実証、導入、継続運営まで伴走し、投資を地元の仕事と所得につなげます。

世界に学ぶ

フランス IMT Mines Albi｜企業と学ぶ ↗
ドイツ DHBW｜理論と実務を往復 ↗
ドイツ Fraunhofer｜研究から社会実装 ↗
英国 Preston｜地域に富を循環 ↗

05 地域を支える人材を育てる。

移民拡大に頼る政策には反対します。国内の人材育成、働く環境の改善、AI・ロボットの活用で地域を支える力を育てます。すでに暮らす住民の権利を守り、行政サービスは公平に運用します。

世界に学ぶ

シンガポール SkillsFuture｜人材育成の参考 ↗

世界事例は政策の参考です。福岡の提言と同一の制度を示すものではありません。

PILLAR 04 / CULTURE & EVERYDAY

04 文化が育つ。住み続けられる。

街の面白さは、そこに暮らし、働き、表現する人から生まれます。再開発とともに、創造の担い手が住み続けられる場所を育てます。

居住世帯のある住宅に占める借家

59.5
%

2023年／借家50.96万戸 ÷ 居住世帯あり85.64万戸。家賃上昇率ではありません。
福岡のデータ・出典 ↗

観光の経済価値を、住まい・文化・市民生活へ還元。

06 クリエイターが暮らし、挑戦できる街。

クリエイター、アーティスト、スタートアップ、小さな商いの担い手に、手頃な住まい、アトリエ、スタジオ、店舗、オフィス、発表の場を。中心部や一定額以上の住宅などでは、投機目的の短期転売を抑えます。住み替えや相続には配慮します。

世界に学ぶ
ロンドン｜Creative Enterprise Zones ↗
米国 Everett｜アーティスト向け住居 ↗
シンガポール｜短期売却への課税 ↗

07 1階と道を、街のリビングに。

重点となる通りの1階を、飲食店、カフェ、店舗、工房、ギャラリーなど街に開かれた場所へ。テラス席や小さな商いが道路を使える場所・時間・広さ・申請ルールを整えます。歩行者、車いす、ベビーカー、配送、消防の空間を確保し、駐車場と人が過ごせる道を両立します。

世界に学ぶ
パリ｜商業・職人活動の保護 ↗
パリ｜テラス席のルール ↗
メルボルン｜Little Streets ↗

世界事例は政策の参考です。福岡の提言と同一の制度を示すものではありません。

PILLAR 04 / CULTURE & EVERYDAY

04 文化が育つ。住み続けられる。

祭り、食、商いを、市民が受け継ぐ文化として育てる。観光の価値と、日々の暮らしを支える費用の両方に向き合います。

観光入込客数

2,441
万人

2024年／福岡市の推計値。居住人口やユニーク訪問者数ではありません。
福岡のデータ・出典 ↗

観光消費額

7,388
億円

2024年／推計。市の税収・行政収入ではありません。
福岡のデータ・出典 ↗

観光の経済価値を、住まい・文化・市民生活へ還元。

08 歴史と文化を、次の世代へ。

祭り、食、商い、地域の風景を、観光資源としてだけでなく、市民が受け継ぐ文化として大切にします。担い手を支え、若者が地域の歴史や仕事に触れる機会を広げます。

世界に学ぶ
シンガポール｜ホーカーの事業承継 ↗

09 観光の価値を、市民の暮らしへ。

混雑、清掃、公共空間の維持と魅力づくりの費用を、市民だけに背負わせません。空港、地下鉄など公共交通、宿泊、飲食を対象に、市民と来訪者で料金・負担を分ける仕組みを検討。交通・文化・市民生活へ還元します。税、運賃、サービス料金はそれぞれの仕組みに応じて設計します。

世界に学ぶ
アムステルダム｜居住者と観光税 ↗
ベネチア｜公共交通の料金区分 ↗

世界事例は政策の参考です。福岡の提言と同一の制度を示すものではありません。

PILLAR 05 / CARE & RESILIENCE

05 安心と、自分らしさを。

人とつながることを強制せず、孤立したときには支えにつながれる。日常の居場所と災害への備えを、一つの地域基盤として考えます。

地域にある公民館

153

館

2024年度／分館3館を含む。

福岡のデータ・出典 ↗

公民館の年間利用

537.2

万人・延べ

2024年度／原数5,372,066人。同じ人の複数利用を含みます。

福岡のデータ・出典 ↗

既存の地域拠点を生かし、日常の居場所と災害時のつながりを強く。

10 つながれる場所。一人でいられる自由。

公民館や既存の拠点を生かし、「ここにいていい」と感じる場所を育てます。人を迎え、話を聴き、必要な支援や仲間につなぐ人も大切に。交流したい人も静かに過ごしたい人も、自分の居方を選べる街にします。

世界に学ぶ

ヘルシンキ Oodi｜居方を選べる図書館 ↗

11 災害時も、暮らしをつなぐ。

移動・電源・情報・物資を支える備えを。車両や施設など普段使う資源を災害時にも生かし、地域、企業、医療・福祉の現場と訓練して、実際に動く備えをつくります。

世界に学ぶ

ウェリントン｜地域の緊急支援ハブ ↗

世界事例は政策の参考です。福岡の提言と同一の制度を示すものではありません。

PILLAR 06 / CIVIC & ACCOUNTABLE

06 市民とつくる。結果を示す。

AIは行政の目的ではなく、人の時間を生み出す道具。市民の願いを政策につなぎ、費用と暮らしの変化で結果を確かめます。

オンライン申請可能な手続の割合

94.4

%

2024年度末／全手続の処理件数ベース。実際のオンライン利用率ではありません。
福岡のデータ・出典 ↗

「できる」から「使いやすい」へ。利用と暮らしの変化で成果を測る。

12 AIを、市民の願いをかなえる道具に。

何度も同じ説明をしなくてよい、分かりやすい相談・手続きへ。AIで職員の事務負担を減らし、人が人に向き合う時間を増やします。対面・電話も残し、暮らしや権利に関わる重要な判断は人が確認します。

世界に学ぶ
ヘルシンキ｜行政のAIレジスター ↗

13 試した数より、変わった暮らしを。

政策ごとに費用と成果を示します。実証や設備の数だけでなく、移動時間、仕事、所得、住まいの負担、継続利用など、市民の暮らしがどう変わったかで評価します。

世界に学ぶ
ニューヨーク｜市の成果報告 MMR ↗

世界事例は政策の参考です。福岡の提言と同一の制度を示すものではありません。